授　業　概　要

（こども保育学科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
保育原理Ⅰ	（ 講義・演習・実習 ）	平澤　久美子

実務経験　あり　なし

幼児教育分野での経験を通して、保育原理を教授する。

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30 時間（2 単位）	1 年・前期	必修

〔授業の目的・ねらい〕

「生涯にわたる人間形成の基礎を培う時期」に保育士として子どもに関わることを常に胸に刻み、保育とは何かを学んでいく。

〔授業全体の内容の概要〕

保育の意義、基本的原理、歴史と現状、課題、様々な保育思想などの基礎知識を学ぶ。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

保育とは何か、子ども観、保育環境、保育内容と方法、保育の計画など保育の全体像について理解をする。現状において保育者に求められている事は何かなどについて、自分なりに考察できる。また、歴史や制度を理解し実践を支える力をつける。

〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕

コマ数

1　はじめに「保育」という言葉からイメージするもの
2　保育とは何か
3　保育の基盤としての子ども観
4　保育における子ども理解
5　子どもが育つ環境の理解
6　保育内容・方法の原理
7　　〃
8　保育の計画と実践の原理
9　保育者に求められるもの
10　保育の歴史に何を学ぶか（西欧）
11　保育の歴史に何を学ぶか（西欧）
12　保育の歴史に何を学ぶか（日本）
13　家族援助と子育て支援
14　保育の現状と課題
15　まとめ

〔使用テキスト・参考文献〕

・「新しい保育講座①保育原理」（ミネルヴァ書房）
・保育所保育指針解説書（フレーベル社）
・参考資料配布

〔単位認定の方法及び基準〕

①4/5 以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。
②定期試験（80 点）、出席状況（10 点）、授業態度及び提出物評価（10 点）で評価する。

授業概要

（こども保育学科）

授業のタイトル（科目名） こども家庭支援論	授業の種類 （ 講義・ 演習 ・ 実習 ）	授業担当者 有沢　早紀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30 時間（2 単位）	2 年・前期	必修

実務経験　あり　なし
保育所での保育士の経験を通して、「こども家庭支援論」を教授する。

［授業の目的・ねらい］
保育所の役割として入所児の保育だけでなく、その保護者ならびに家族、地域の子育て家族への援助が必要になっている現状を理解することができる。

［授業全体の内容の概要］
保育所が社会の中で置かれている位置を知ってもらい、実際の支援事業や支援方法について講義を通して理解する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
1　こども家庭支援論を学ぶ
2　現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況を説明することができる。
3　保育の現場で行われている保育相談支援について実践しようとすることができる。
4　子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について説明することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	
1	こども家庭支援論とは
2	子育て家庭を取り巻く社会の状況
3	子育て家庭とは
4	現代の子育て家庭の悩み
5	保育・幼稚園・こども園における保育士の役割と基本姿勢
6	保育現場における子育て家庭への支援①
7	保育現場における子育て家庭への支援②
8	特別な配慮を必要とする子育て家庭への支援①
9	特別な配慮を必要とする子育て家庭への支援②
10	保育所における特別な配慮を必要とする子育て家庭への支援③
11	社会的養護を必要とする家庭への支援①
12	社会的用語を必要とする家庭への支援②
13	子ども家庭支援における社会資源との連携
14	子ども家庭支援のこれからの課題
15	試験

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
「よくわかる家庭支援論」（ミネルヴァ書房）	①4/5以上の授業に参加していることで、定期試験を受験することができる。 ②定期試験（60 点）、出席状況（10 点）、提出物（20 点）、授業態度（10 点）で評価する。

授業概要

（こども保育学科）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
乳児保育Ⅰ	（講義・ 演習 ・ 実習 ）	高橋　裕子

実務経験　あり
保育園での保育士の経験を通して、乳児保育を教授する。

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30 時間（2 単位）	1 年・前期	必修

［授業の目的・ねらい］
・乳児保育の意義・乳幼児の成長発達と保育者の役割を理解し、保育の現場で必要な知識・技術・保育マインドを身に付ける。

［授業全体の内容の概要］
・テキストや DVD で乳幼児の成長発達と食事・睡眠・排泄・着脱等基本的生活習慣について学ぶと共に乳幼児期のあそびや健康安全管理・生活環境について学習する。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・乳幼児期の月齢・年齢ごとの発達の姿と留意点を説明できる。
・発達に沿った保育のあり方を述べることができる。
（保育マインド・援助・保育環境・5 領域を意識した保育のあり方）
・食事・排泄・睡眠等乳児保育に必要な基本的援助法を身につけ、実習先で実践できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1. 保育の基本は乳児期から：一人ひとりを大切に育てる
2. 0~3 か月：肌で安心・愛情を感じる・0 歳児クラスの空間見取り図
3. 育児担当制と流れる日課・0 歳児クラスの担当者の 1 日の流れ
4. 4~6 か月：あやすおとな、聴く子ども
5. 離乳初期の食事のすすめ方・着脱・排泄
6. 7~9 か月：自分でひろげる外界
7. 離乳中期の食事のすすめ方・着脱・排泄
8. 10~12 か月：信頼するおとなとの共同
9. 0 歳児の発達とあそび・0 歳児クラスの環境づくり
10. 12~15 か月：わたしを見ていて～アタッチメントの形式
11. 16~24 か月：少しわたしにまかせて～母子分離
12. 1 歳児クラスの子どもと担当保育者の 1 日の流れの例
13. 25~36 か月：ひとりでできるよ～自律から自立へ
14. 2 歳児クラスの子どもと担当保育者の 1 日の流れの例・2 歳児クラスの環境づくり
15. まとめ

［使用テキスト・参考文献］

改訂　乳児保育
一人ひとりが大切に育てられるために
（郁洋舎）

［単位認定の方法及び基準］

・定期試験（70 点）
・援助技術（15 点）
・出席状況（15 点）